

令和2年度 学校評価報告書

丹波篠山市立篠山中学校
校長 細見 博文

1 学校教育目標等

基礎力・思考力・実践力をもち、支(さ)え合いの中で躍(や)動して学(ま)び続ける生徒の育成

2 今年度の重点目標

- 1 予習、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正、推敲などの振り返りにより「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の充実を図る。
- 2 いじめ、不登校等に対して、即時即日に関係機関とも連携した組織的な生徒指導を充実するとともに、生徒会を活用して、いじめ対応、情報機器の活用について、実感を伴った教育活動を進める。
- 3 生徒・保護者・地域・教職員による四つの力委員会を核として、社会や将来の糸口となる、夢のある講演、やりがいのあるボランティア活動、やすらぎのある安全点検を進め、生徒の自治能力や社会参画する力を育成する。
- 4 校務や会議の効率化、記録簿によりタイムマネジメント意識の向上を図る中で業務改善を進める。

3 学校自己評価結果

(達成状況・・・A:よく達成できた B:達成できた C:やや課題が残る D:改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	「篠中授業スタンダード」に基づいた授業をしている。	A	○授業スタンダード(予習・目標理解・個人思考・集団思考・振り返り)について、対話が深い学びにつながるよう工夫をしている生徒77%、授業がわかりやすいと思っている生徒80%であり、対話・思考・振り返りに重点をおいた授業の進め方を生徒は肯定的に受け止めている。また、予習復習をする生徒は71%で、昨年度より7ポイント上昇している。新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業中、シラバスの配布、予習動画の配信、課題の提示などの工夫を行い、予習、復習に取り組む生徒が増加した。次年度は、GIGAスクールで整備される一人一台パソコンを使い「個別最適な学び」「協働的な学び」「主体的な学びのふりかえり」を効果的に行い、個と集団を思考が行き来し、深める授業を一層進めるとともに、生徒が自らの学習を振り返り次の学習に向かうことができるよう指導と評価の一体化を図る。あわせて、見通しのある予習、振り返りのある復習を含む家庭学習の充実を図る。
	予習や復習などの家庭学習に取り組ませている	B	○「個別の指導計画」について、特別支援学級では通知表とリンクさせたことにより、「目標―指導―評価」の一体化がすすんだ。通常学級では、サポートファイルの目標にもとづいて、学期ごとにスモールステップで支援を考えることができた。次年度は、支援や配慮の内容について、全体で共通理解するとともに、授業のユニバーサルデザイン化をさらに進める。
	教育支援計画における合理的配慮及び個別の指導計画を見直し、全職員で共通理解をしながら指導を行っている	A	
	授業のユニバーサルデザイン化を図り、「豊かな人間関係づくり」「伸びる力」の育成に努めている	B	
生徒指導	不登校、問題行動、その他の生徒指導について、指導の方向の明確化と共有を図り、各自の役割を遂行している。	A	○長期休業の影響を考慮し、教育相談の頻度を上げ、対話を基本として生徒の内面理解を深める取組を進めた。また、学習指導と関連づけ、言葉遣いや命に対しての指導を行った。しかし、感染防止のため教育活動が制限される中、仲間づくり等の機会が減少したので、授業を中心に一方的にならない教育活動を構築する。
	情報機器取り扱いについて、生徒会・PTA・警察と連携した取り組みを行っている。	B	○2回の情報モラル講演会など、情報機器の使用について注意喚起を行うことができた。また、日頃からSNSの危険性についての指導を継続し、事案発生時は保護者と連携し、対応した。今後、情報機器取り扱い3ヶ条の見直しなど、生徒会活動と連携しての取組を進める。
	いじめアンケート、教育相談、QUテストを活用して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決をしている。	A	○日々のノートなどの情報の共有を図り、教師間・保護者と同一歩調での指導を行った。いじめ基本方針を基に、いじめの積極認知と早期発見・早期対応に努めた。また、生徒会によりいじめノックアウト宣言作成の取り組みを進めることができた。学年担任制による連携について、今後も、即時対応ができるフットワークの軽い組織をつくっていく必要がある。また、QUテストを効果的に活用していく。
	道徳研修を意欲的に行い、道徳の時間の改善に努めている。	A	○他者や自己との対話による道徳について、全職員が授業に関わるローテーション授業の実施や講師を招き研修を行うことで授業力向上が図れた。今後は中心発問に時間を割き、ねらいにせまることができる授業をさらに研究していく。
地域とともにある学校づくり	学校だより・学年だより・学級だより・保健だより・図書だよりなどの発行、ホームページの毎日の更新を通して、保護者・地域への広報活動を積極的に行っている。	A	○ホームページに日々の授業や生徒の取り組みがタイムリーにアップされ、保護者、地域の学校への関心、学校理解につながっている。
	学校運営協議会を開催し、学校への意見聴取や環境美化活動・花いっぱい活動を積極的に行っている。	A	○生徒会と学校運営協議会が連携した四つの力委員会において協議し、人権啓発を中心とした地域貢献や、企業によるICT教育など授業での地域人材の活用を進めた。学校運営協議会安全点検やPTA美化活動など、新型コロナウイルス感染防止を核とした安全・健康教育を進めた。新型コロナウイルス感染症対策のため、第1回・第4回会議は紙面表決を行うとともに地域人材を活用した授業支援の規模を縮小をした。今後、一人一台パソコンの導入もあるもので有効に活用し、地域と生徒を結びつける授業を検討していきたい。
	小中連携推進委員会、小中合同研修会、各小学校への出前授業、体験入学、入学説明会などを通して、小中の相互理解に努めている。	B	○小中連携での取り組みとして、9年間の系統立てた取り組みを通して、成果が上がるものをさらに検討、協議する。
業務改善	原則週2回のノー部活動デーを実施したり、部活動計画を毎月生徒・保護者に周知するなど、適切な運営をしている。	A	○部活において木曜日及び土日どちらかをノー部活にすることは浸透している。部活動運営、部活動指導員の活用等について今後さらに検討の必要がある。
	木曜日は定時退庁の日として、18:30までに退庁している。	B	○学校行事について①主体的に協働して学級全員で取り組めること、②授業の成果の発表の場であること、③安全安心に取り組めることの観点から昨年度に見直したことで、コロナ禍にあっても体育祭・文化祭が円滑に実施できた。今後も学校改革推進委員会で業務の見直しを進める。また、1人1台タブレットを利用した校務・業務の効率化・情報化を進める。生徒指導等で定時退勤できない木曜日はあるものの、少なくとも週1日は定時退勤できるように校務の計画的・効率的な遂行、タイムマネジメントを業務改善と並行して行う。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

・子どもたちの自尊感情を高めることが目標に入っていることが素晴らしい。今後とも「幸せを感じる子ども」を増やして欲しい。
 ・四つの力委員会がすばらしい。生徒たちの思いを直接聞くことができ、自分なら何が出来るか？を真剣に、そして嬉しく考えることができました。生徒の考えも素晴らしいと感じました。
 ・学力向上、生徒指導、家庭地域連携、業務改善と課題の柱が明確になっている。令和2年度において成果があったものを整理し、さらに積み上げをし、課題となったものは課題解決の方策を打ち出し解消することが大事だと思います。
 ・コロナ禍に際し、予習復習をする生徒が前年を上回ったことは強く評価できる。また、長期休業中の影響を考慮した配慮が随所に伺え、生徒の内面理解を深められたことも最大限の評価ができる。
 ・コロナ禍の中で運営に苦慮しながらも、生徒の自主性を重んじたりリモートによる意見交換など四つの力委員会の成長が表れています。良い進展を望みます。コロナ禍で大変な中、よく進められていると思います。
 ・生徒会と学校運営協議会が学校づくりについて議論する「四つの力委員会」がコロナ禍の問題で議論することが難しかった。
 ・コロナにより積み残した部分を、さらに充実するために継続実践すべき。コロナ対応の中、教職員・生徒の目標に対する実行は困難を極めたことと思う。こうした中、生徒の「心傷」「人間関係の停滞」等が将来に何らかの影として存在することはないか、今後検証してほしい。
 ・いじめ・不登校などについて実感を伴った教育を進めてほしい。

(2) 総合的な評価(意見・感想)

・オープンスクールや四つの力委員会を通して、生徒たちの実態にふれ合える機会をできるだけつくろうとする「開かれた学校」運営方針は評価できると思います。子どもたちの実態が分からなければ何も評価できないと思うからです。
 ・篠山中学校の取組の成果については概ね高い評価ができています。目標や具体的取組、改善策も分かりやすく、先生方一丸となった教師力と保護者・地域・教職員のそれぞれの思いや多様な考え方や知恵を集結させる新たな取組の「四つの力委員会」はすばらしいと思います。とりわけ、新生徒会長のお手紙に地域として力を強く注ぎたいと思いました。
 ・四つの力委員会は地域への交流、親交は一部のものであり不十分である。生徒との対話も学校への要望が多く、その思いに対して学校や運営委員会はそれなりの評価(答え)を生徒に返せていない。
 ・コロナ禍により様々な活動が制限される今年度でしたが、随所に創意工夫がなされ学習面のみならず最大限の活動を実施できたと評価できる。
 ・これからの社会はコロナウイルスと向き合い、今までにない生活様式を求められています。地域にとっても人の繋がりが方も変化をよぎなくされています。先生方の教育指導も多岐にわたりご苦労があると思いますが、教育以外のことも考えを巡らし、将来ある生徒たちのワイワイマイゴころで生徒と大人が英知を巡らすコミュニティ・スクールをつくりあげてほしいと思います。
 ・コロナウイルス感染拡大による困感の中、多くの課題に果敢に取り組まれた学校スタッフに敬意を表したい。一方、この事態に真剣に取り組んだ者と、いたずらに時を過ごした者との差が今後の進路に大きな差にならないか危惧する。
 ・いつ行ってもきれいに掃除がされていて気持ちが良い。学校評価の報告書について、とても学校の様子がよく分かる。また、生徒会長から手紙をもらって感動した。常に試行錯誤されながら教育に取り組まれているのが報告書を拝見させていただきよくわかります。子どもたちが篠中で学べてよかったと実感できる教育活動を進めてください。
 ・篠山中生がもっている伝統の中から生み出された「失敗を恐れない勇気」とは、どのような所で感じられるのか。(回答:地域行事等で生徒に活躍する機会を与えてもらったり、大きな集団の中で生徒が切磋琢磨していることから、物怖じしない傾向がある。)
 ・コロナ禍であったりネット社会であったり不安がぬげない。学校へ行きにくい生徒の実態やフォローを見えやすくすることも必要である。
 ・学校の自己評価を行うのは良いことだと思いますが、達成度のランクづけは不要のように思います。

(3) 学校自己評価の結果及び改善策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒どうしの対話や協働活動を取り入れ、主体的に自ら学び自分の意見を深めていける生徒の育成に努めているので評価できる。今後相互の授業見学などを通じ深めていってほしい。 ・授業の進め方であったり授業が分かりやすいと思っている生徒が多く、高く評価できると思います。休業中に予習復習に取り組む生徒が増えたことは学習指導に努力・工夫された結果だと思います。次年度GIGAスクールで整備される一人一台パソコンの活用を含め、さらなる高みを目指して頂きたいと思います。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業中、シラバス配布、予習動画の配信、課題の提示などを行い、予習復習に取り組む生徒が増加したことは多に評価できる。 ・休校中に予習動画の配信など様々な工夫を図り、予習復習に取り組む生徒が増加したことは大きな成果である。次年度より実施されるGIGAスクールの長所を最大限いかし、授業の理解度を一層深めていただくことを希望します。 ・コロナ禍の中、知恵を出して取り組んだことが見てとれる。コロナのために授業時数のやりくりが大変だったと思います。 ・授業のユニバーサルデザインについて、具体的な内容を教えてほしい。(回答:覚えるのが苦手な生徒に視覚支援をしたり、授業の見通しをよりはっきり示したりすることを進める。) ・一人一台パソコンについて、どのような効果が出てくるのか。今後聞かせてほしい。 ・学習過程は教育の原点であるが、本校として揺るぎない学ぶべき方針を策定してはどうか。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・何よりも生徒の安全(身体も心も)守ることが大事という意識を徹底し、学校運営協議会委員による安全点検も続けてほしい。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う長期休業の影響も考慮され、教育相談の頻度を上げられ対話を基準とした生徒の内面理解を深める取組を進められました。通常の時にはない取組や生徒それぞれに対する対応は難しいものがあつたと思います。今後コロナの驚異は続きますががんばってください。 ・長期休業中の生徒指導は本当に難しい状況に合ったと思います。そういった中で教育相談の頻度を上げ、生徒の内面理解を深めたこと、SNSの危険性について指導継続と事案発生時の保護者との連携が図れたことなど取組の成果は大きいと思います。仲間作りの機会の課題解決と教職員のフットワークの軽い組織づくりに期待します。 ・活動が制限される今年度において、様々な工夫を施し、生徒及び保護者のために学校行事を可能な限り平時同様に実施できたことは大きな成果である。言葉遣いや命に対しての指導を継続し、豊かな感性を基盤に磨かれた人権感覚を養っていただくことを希望します。 ・見える範囲、聞こえてくる情報では大きな問題がなかったようです。学校評価がAなので安心して良いのではないかと思います。 ・心内に存在する差別性・小さい心の社会不安など人間の尊厳を大切に学習を進める。 ・いじめ・不登校対応にさらなる取組を期待する。
家庭・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した「ふるさと教育」の充実により、ふるさとを知る、ふるさとを愛する子供の育成につながっていることを評価できる。今後も一層、地域(ふるさと)へ出かけ、地域の人とふれ合う機会を大切にしたい。 ・四つの力委員会は地域連携を深める素晴らしいものだと思います。また、出席している生徒たちもしっかりとした意見をもって発言している。委員として参加させてもらうのが楽しみです。 ・学校だより、学年だより、学級だより、保健便り、図書だより等の発行、ホームページで日々の授業や生徒の取組がタイムリーにアップされ保護者、地域の学校への関心理解につながっているのは大変評価できる。学校だよりを見るたびに学校の様子がよく分かった。ホームページに日々の授業や生徒の取組がタイムリーにアップされていることは保護者や地域にとって有効な情報提供である。家庭や地域が果たす役割、連携による取組などが自らできるような仕組みづくりが必要かと思えます。まず、多くの人にホームページを見てもらう、多くの人に知恵を出してもらうことから始めていければと思います。 ・ホームページの更新頻度が高く保護者のみならず地域の方々にも学校の様子をこまめに確認することができる。四つの力委員会を通して郷土愛を育む活動を実施していただきたい。 ・部活動における地域の人の指導者としてのかかわりをもっと進めていくことも大事だと思います。 ・地域には多くの組織団体が存在しているが、選択を図りつつ定期的・中長期的交流を深める。議論を深めるテーマを設定してはどうか。 ・地域としてもコロナ禍の安全安心を検討しなければなりません。 ・義務教育による教師・生徒・保護者の学校内外での面接・交流は重要である。小中養護学校の交流、防災等の交流を進めてほしい。 ・小中連携の取組をさらに強化することとキャリアノートの充実を図ってほしい。
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の多忙する状況下、校務・業務の効率化を図ることが非常に難しい現状にある中、学校行事においては改善の3項目をおき、コロナ禍であってもソーシャルディスタンスを考慮・工夫する中で体育祭や文化祭ができたことは生徒にとってかけがえのない大きな成果である。学校改革推進委員会の果たす役割は大きい。今後、めざす業務改善策に向けて少しでも近づけるように精励頂きたい。 ・管理職自らが率先して働き方改革に努め、いきいきと勤務することで他の職員にも感化を与えてほしい。 ・定時退勤の取組強化を実態把握して対処することに期待する。 ・定時退勤日の評価がBであるのは残念であるが、コロナ禍にあって残業しなくてはならない理由があるように思います。 ・部活動について外部指導員の賛否両論はありますが、顧問教諭の負担軽減を図るべきと強く思います。職場環境の改善は今後も継続し、日々ベストコンディションで生徒指導に務めて頂くことを希望します。 ・先生たち忙しすぎます。土日祝日部活をなくすことは不可能なことなのでしょうか。 ・生徒減少によるスポーツ・絵画・音楽など文化的活動の低下を危惧する。交流学習が重要である。